

バッハの「インベンション」と「シンフォニア」は、彼が教育目的で書いた短い鍵盤楽器のための作品集です。それぞれの作品は、技術的な訓練と音楽的な理解を深めるための優れた教材として知られています。以下、それぞれについて説明します。

インベンション (Invention)

- **概要:** バッハのインベンションは全 15 曲からなり、主に 2 声の構成で書かれています。「インベンション」は、基本的に一つの主題(メロディ)がさまざまな形で繰り返され、変形される形式を取ります。
- **目的:** バッハはこれらを通じて、若い音楽家に対して、2 つの声部を同時に演奏する技術や、旋律の発展方法を学ばせることを意図していました。
- **特徴:** シンプルでありながらも、複雑な対位法の技術を学ぶために役立つ構造になっています。右手と左手が同等の役割を果たすため、手の独立性を養うことができます。

演奏におけるポイント

1. **声部の独立性:** 各声部が独立していることを強調し、それぞれのメロディーラインを明確に表現する。
2. **フレージング:** バロック時代の音楽におけるフレージングを理解し、自然な流れで音楽を進行させる。
3. **装飾音:** バッハの作品において装飾音(トリル、モルデントなど)は重要な要素です。これらを効果的に使い、音楽に装飾的な美しさを加える。

1. インベンション 第 1 番 ハ長調, BWV 772

- **調性:** ハ長調 (C major)
- **特徴:** 明るく軽快な性格を持つ。簡潔で親しみやすい主題が繰り返され、発展する。
- **構造:** 主題が最初に提示され、続いてその応答が繰り返される。典型的なバロックの 2 声対位法のスタイルを示す。

2. インベンション 第2番 ハ短調, BWV 773

- **調性:** ハ短調 (C minor)
- **特徴:** 内省的で憂いを帯びた性格。半音階的な動きが特徴的で、感情の深さを感じさせる。
- **構造:** 主題の提示の後、それがさまざまな形で展開され、緊張感を持続させる。

3. インベンション 第3番 ニ長調, BWV 774

- **調性:** ニ長調 (D major)
- **特徴:** 活気に満ちた、リズムカルな性格。跳躍音程を含む主題が繰り返されることで、躍動感が生まれる。
- **構造:** シンコペーションとリズム的な変化が際立ち、軽快な印象を与える。

4. インベンション 第4番 ニ短調, BWV 775

- **調性:** ニ短調 (D minor)
- **特徴:** メランコリックで思索的な雰囲気。動機的なフレーズが緻密に展開される。
- **構造:** 対位法の技法を活用し、主題が繊細に発展していく。

5. インベンション 第5番 変ホ長調, BWV 776

- **調性:** 変ホ長調 (E-flat major)
- **特徴:** 明るく喜びに満ちた性格。主題は明瞭で、しっかりとした構造を持つ。
- **構造:** 分散和音的なフレーズが用いられ、和声の豊かさが感じられる。

6. インベンション 第6番 ホ長調, BWV 777

- **調性:** ホ長調 (E major)
- **特徴:** 穏やかで優雅な性格。旋律は歌うような性質を持ち、しっとりとした情感がある。
- **構造:** 主題が繰り返され、変奏される。アルペジオの пассаージュが印象的。

7. インベンション 第7番 ホ短調, BWV 778

- **調性:** ホ短調 (E minor)
- **特徴:** 劇的で緊張感がある。下降音形が頻繁に現れ、不安定感を演出する。
- **構造:** 半音階的な動きを多用し、深みのある表現がなされる。

8. インベンション 第8番 ヘ長調, BWV 779

- **調性:** ヘ長調 (F major)
- **特徴:** 優雅で流麗。左手と右手が対話的に主題をやり取りする。
- **構造:** 主題が明瞭で、シンプルだが効果的な展開を見せる。

9. インベンション 第9番 ヘ短調, BWV 780

- **調性:** ヘ短調 (F minor)
- **特徴:** 深刻で哀愁を帯びた雰囲気。対位法的な構造が際立つ。
- **構造:** 半音階的なモチーフが繰り返され、緊張感のある進行を見せる。

10. インベンション 第10番 ト長調, BWV 781

- **調性:** ト長調 (G major)
- **特徴:** 軽快で跳ねるようなリズム。明るく、希望に満ちた性格を持つ。
- **構造:** ダンサブルなリズムが特徴で、対位法的な動きが楽しい。

11. インベンション 第11番 ト短調, BWV 782

- **調性:** ト短調 (G minor)
- **特徴:** 深い情感を持つ。ドラマティックなフレーズと対位法が印象的。
- **構造:** 短調の特性を生かした陰影のある進行。

12. インベンション 第12番 イ長調, BWV 783

- **調性:** イ長調 (A major)
- **特徴:** 明るく、軽やか。スケールのようなパッセージが頻出する。

- **構造:** シンプルで親しみやすいメロディーが特徴的。

13. インベンション 第 13 番 イ短調, BWV 784

- **調性:** イ短調 (A minor)
- **特徴:** 穏やかで優美な性格。シンコペーションが効果的に用いられる。
- **構造:** 流麗なメロディーラインとリズムの変化が特徴的。

14. インベンション 第 14 番 変ロ長調, BWV 785

- **調性:** 変ロ長調 (B-flat major)
- **特徴:** 華やかで明朗。和音の進行が豊かで、バロック的な壮麗さが感じられる。
- **構造:** アルペジオの使用が多く、豊かな和声を生み出している。

15. インベンション 第 15 番 ロ短調, BWV 786

- **調性:** ロ短調 (B minor)
- **特徴:** 憂いを帯びた、深みのある性格。旋律と和声の絡みが美しい。
- **構造:** 複雑な対位法的展開がなされ、感情の深さが表現される。

インベンションの学習の意義

バッハのインベンションは、鍵盤楽器の学習者にとって、指の独立性、音楽的な表現力、対位法の理解を深めるための理想的な教材です。これらの作品を通じて、学習者は多声的な音楽の聴き取りと表現の技術を養うことができます。また、それぞれの曲が異なる性格を持っているため、さまざまな感情や雰囲気表現する能力も身につけることができます。

シンフォニア (Sinfonia)

- **概要:** シンフォニアは全 15 曲からなり、こちらは 3 声の構成で書かれています。「シンフォニア」という言葉は、バッハの時代には「3 声のインベンション」として理解されていました。
- **目的:** シンフォニアは、3 つの異なる声部を同時に演奏する能力を養うことを目指しています。これにより、より高度な対位法と和声の感覚が身につきます。
- **特徴:** 各声部が独立して動くため、より複雑な音楽的構造を持ち、音楽の流れを維持するための高度なテクニックが求められます。インベンションよりも複雑で、音楽的な深みが増しています。

バッハの《シンフォニア》(または《3 声のシンフォニア》)は、15 曲の 3 声の小品から成る鍵盤楽器のための作品集であり、同じく教育的な目的で書かれました。シンフォニアは《インベンション》に比べて 1 声部多く、複雑な対位法が特徴です。以下は各曲の調性、音楽的な特徴、構造についての詳細です。

1. シンフォニア 第 1 番 ハ長調, BWV 787

- **調性:** ハ長調 (C major)
- **特徴:** 明るく生き生きとした性格。軽快なリズムと活気のあるメロディーが特徴的。
- **構造:** 3 つの声部が独立して動きながら、調和を保つ。シンプルなモチーフが繰り返され、対話的な進行が展開される。

2. シンフォニア 第 2 番 ハ短調, BWV 788

- **調性:** ハ短調 (C minor)
- **特徴:** 哀愁を帯びた、内省的な性格。半音階的な動きが多く、不安定感を醸し出す。
- **構造:** 各声部が緊密に絡み合い、主題の繊細な展開が見られる。終始一貫した緊張感がある。

3. シンフォニア 第 3 番 ニ長調, BWV 789

- **調性:** ニ長調 (D major)
- **特徴:** 軽快で喜びに満ちた性格。明るい旋律と和声が印象的。
- **構造:** 主題がリズムカルに繰り返され、跳ねるようなリズム感が強調されている。

4. シンフォニア 第4番 ニ短調, BWV 790

- **調性:** ニ短調 (D minor)
- **特徴:** 悲しげで重々しい性格。深い感情とドラマティックな要素がある。
- **構造:** 各声部が主題を受け渡ししながら、対位法的な複雑さを持って展開する。

5. シンフォニア 第5番 変ホ長調, BWV 791

- **調性:** 変ホ長調 (E-flat major)
- **特徴:** 穏やかで優美な性格。アルペジオ的な要素が強調され、和音が豊か。
- **構造:** 明瞭な主題があり、3声のバランスが効果的に保たれている。

6. シンフォニア 第6番 ホ長調, BWV 792

- **調性:** ホ長調 (E major)
- **特徴:** 清澄で繊細な性格。流れるような旋律が特徴的。
- **構造:** 各声部が滑らかに動き、主題が美しく展開される。対位法の精巧さが際立つ。

7. シンフォニア 第7番 ホ短調, BWV 793

- **調性:** ホ短調 (E minor)
- **特徴:** 緊張感があり、神秘的な性格。低音の動きが重厚感を与える。
- **構造:** 繰り返される主題が不安定さを感じさせ、半音階的な進行が目立つ。

8. シンフォニア 第8番 へ長調, BWV 794

- **調性:** へ長調 (F major)
- **特徴:** 明るく快活な性格。主題ははっきりとしており、軽快なリズムが支配的。
- **構造:** 各声部が対話的に動き、音楽の流れが自然に感じられる。

9. シンフォニア 第9番 へ短調, BWV 795

- 調性: へ短調 (F minor)
- 特徴: 深刻で感傷的な性格。動機の変化が効果的に使用されている。
- 構造: 音楽の進行が抑揚に富み、複雑な対位法が緻密に組み込まれている。

10. シンフォニア 第10番 ト長調, BWV 796

- 調性: ト長調 (G major)
- 特徴: 朗らかで軽快な性格。メロディーが跳ねるように動く。
- 構造: 簡潔な主題があり、それが展開されていく。三声部の間の対話が明確。

11. シンフォニア 第11番 ト短調, BWV 797

- 調性: ト短調 (G minor)
- 特徴: 落ち着いた、物憂げな性格。和声の動きが重厚。
- 構造: 各声部が異なるリズムで動きながらも調和を保ち、深い感情を表現する。

12. シンフォニア 第12番 イ長調, BWV 798

- 調性: イ長調 (A major)
- 特徴: 優雅で柔らかい性格。和声の美しさが強調されている。
- 構造: スケール的な動きがあり、3声のバランスが洗練されている。

13. シンフォニア 第13番 イ短調, BWV 799

- 調性: イ短調 (A minor)
- 特徴: カ強さと繊細さが混在。表現力豊かな旋律が特徴。
- 構造: 対位法的な要素が濃厚で、主題が多彩に展開される。

14. シンフォニア 第14番 変ロ長調, BWV 800

- **調性:** 変口長調 (B-flat major)
- **特徴:** 華やかで生き生きとした性格。明確なリズム感が特徴的。
- **構造:** 主題が明瞭で、リズムカルな進行が続く。対位法の妙が感じられる。

15. シンフォニア 第 15 番 口短調, BWV 801

- **調性:** 口短調 (B minor)
- **特徴:** 悲しげで荘厳な性格。重厚感があり、深みのある表現が求められる。
- **構造:** 各声部が重なり合い、複雑な対位法的進行を形成。感情の高まりを感じさせる。

シンフォニアの学習の意義

バッハの《シンフォニア》は、鍵盤楽器の学習者にとって、さらに高いレベルの技術的訓練を提供します。特に、3つの独立した声部をバランスよく演奏する能力が求められ、これにより多声的な音楽の理解と表現力が向上します。また、各曲が異なる調性と性格を持つため、さまざまな音楽的感情を探求し、表現する能力を養うことができます。バッハの《シンフォニア》を通じて、学習者は音楽的な洞察と技術を深め、豊かな音楽性を身につけることができます。

学習における役割

バッハのインベンションとシンフォニアは、鍵盤楽器の練習曲としてだけでなく、作曲や音楽理論の学習においても重要です。これらの作品を通じて、学生はバッハの対位法の技術や、和声の発展方法、音楽のフレーズ形成など、多くの重要な音楽的概念を学ぶことができます。また、表現力の向上や演奏技術の洗練にも寄与します。

バッハのインベンションとシンフォニアは、クラシック音楽教育における重要な教材であり、多くのピアニストや作曲家がこれらを通じて基礎を築いてきました。

《平均律クラヴィーア曲集》第 1 巻 (BWV 846–869)

長短 24 調による前奏曲 (Preludium) とフーガ (Fuga) からなる曲集。[1722 年](#)成立。

単独に作曲された曲集ではなく、その多くは既存の前奏曲やフーガを編曲して集成されたものである。特に前奏曲の約半数は、[1720 年](#)に息子の教育用として書き始められた「[ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハ](#)のためのクラヴィーア小曲集」に初期稿が「プレアンブルム」として含まれている。

様々な様式のフーガが見られ、中でも 3 重フーガ (嬰ハ短調 BWV849) や拡大・縮小フーガ (嬰ニ短調 BWV853) は高度な対位法を駆使した傑作とされる。

第 1 番 ハ長調, BWV 846

- **前奏曲:** 有名なアルペジオによる繊細なパターンで構成され、平穏で優雅な雰囲気。
- **フーガ:** 4 声のフーガで、シンプルな主題が対位的に展開される。
- **1. BWV 846 前奏曲 - 4 声のフーガ [ハ長調](#) (Präludium und Fuge C-Dur BWV 846)**

前奏曲は[シャルル・グノー](#)が[アヴェ・マリア](#)の伴奏として用いた。

•

第 2 番 ハ短調, BWV 847

- 前奏曲: 高速な 16 分音符のモチーフが特徴的で、緊張感がある。
- フーガ: 3 声のフーガで、動きのある主題が特徴。リズムカルで力強い。
- 2. BWV 847 前奏曲 - 3 声のフーガ [ハ短調](#) (Präludium und Fuge c-Moll BWV 847)

第 3 番 嬰ハ長調, BWV 848

- 前奏曲: 流れるような旋律が特徴で、穏やかな雰囲気。
- フーガ: 3 声のフーガで、軽快な主題が印象的。

3. BWV 848 前奏曲 - 3 声のフーガ [嬰ハ長調](#) (Präludium und Fuge Cis-Dur BWV 848)

フランツ・クロールが[変二長調](#)に書き直した楽譜もある。

[Präludium](#)



第 4 番 嬰ハ短調, BWV 849

- 前奏曲: 力強く劇的な性格。アルペジオが多用され、緊迫感を生む。
- フーガ: 5 声のフーガで、非常に複雑な対位法が特徴。

4. BWV 849 前奏曲 - 5 声のフーガ [嬰ハ短調](#) (Präludium und Fuge cis-Moll BWV 849)



[Präludium](#)



第 5 番 二長調, BWV 850

- 前奏曲: 明るく快活な性格。跳ねるようなリズム感が特徴的。
- フーガ: 4 声のフーガで、軽快で遊び心のある主題が展開される。

5. BWV 850 前奏曲 - 4 声のフーガ 二長調 (Präludium und Fuge D-Dur BWV 850)

第 6 番 二短調, BWV 851

- 前奏曲: 重厚で内省的な雰囲気。半音階的な進行が特徴。
- フーガ: 4 声のフーガで、対話的な主題が重層的に絡み合う。
- BWV 851 前奏曲 - 3 声のフーガ 二短調 (Präludium und Fuge d-Moll BWV 851)



第 7 番 変ホ長調, BWV 852

- 前奏曲: 柔らかで温かみのある音色。流麗なアルペジオが特徴。
- フーガ: 3 声のフーガで、優雅な主題が繰り返される。
- BWV 852 前奏曲 - 3 声のフーガ 変ホ長調 (Präludium und Fuge Es-Dur BWV 852)

第 8 番 変ホ短調, BWV 853

- 前奏曲: 悲しげで叙情的。装飾音が効果的に使用されている。
- フーガ: 3 声のフーガで、悲劇的な主題が展開される。

BWV 853 前奏曲 [変ホ短調](#) - 3 声のフーガ [嬰ニ短調](#) (Präludium und Fuge es-/dis-Moll BWV 853)

フランツ・クロール版ではフーガも [変ホ短調](#) に書き直してある。

第 9 番 ホ長調, BWV 854

- 前奏曲: 軽快で明るい性格。テンポが速く、跳ねるようなリズム。
- フーガ: 3 声のフーガで、軽やかな主題が印象的。

BWV 854 前奏曲 - 3 声のフーガ [ホ長調](#) (Präludium und Fuge E-Dur BWV 854)

第 10 番 ホ短調, BWV 855

- 前奏曲: 感傷的でしっとりとした雰囲気。穏やかな旋律が特徴。
- フーガ: 2 声のフーガで、繊細で内省的な主題。
- BWV 855 前奏曲 - 2 声のフーガ [ホ短調](#) (Präludium und Fuge e-Moll BWV 855)



•

第 11 番 へ長調, BWV 856

- 前奏曲: 喜びに満ちた性格。リズムカルで、活気のある旋律。
- フーガ: 3 声のフーガで、明快でシンプルな主題。

BWV 856 前奏曲 - 3 声のフーガ [へ長調](#) (Präludium und Fuge F-Dur BWV 856)

第 12 番 へ短調, BWV 857

- 前奏曲: 緊張感のある音楽。ドラマティックな展開が特徴的。
- フーガ: 4 声のフーガで、強烈で圧倒的な主題。

BWV 857 前奏曲 - 4 声のフーガ [へ短調](#) (Präludium und Fuge f-Moll BWV

857)

第 13 番 嬰へ長調, BWV 858

- 前奏曲: 繊細で美しいメロディーが特徴。軽やかで柔らかい。
- フーガ: 3 声のフーガで、上品で穏やかな主題。

BWV 858 前奏曲 - 3 声のフーガ [嬰へ長調](#) (Präludium und Fuge Fis-Dur BWV

858)

第 14 番 嬰へ短調, BWV 859

- 前奏曲: 内省的で悲しげな性格。穏やかでゆったりとしたテンポ。
- フーガ: 4 声のフーガで、感情的で深い主題。

BWV 859 前奏曲 - 4 声のフーガ [嬰へ短調](#) (Präludium und Fuge fis-Moll BWV

859)

第 15 番 ト長調, BWV 860

- 前奏曲: 明るく快活な性格。リズムの強調が特徴的。
- フーガ: 3 声のフーガで、楽しげな主題が展開される。

BWV 860 前奏曲 - 3 声のフーガ [ト長調](#) (Präludium und Fuge G-Dur BWV

860)



第 16 番 ト短調, BWV 861

- 前奏曲: 悲壮感が漂う。半音階的な進行が多く、不安感を醸し出す。
- フーガ: 4 声のフーガで、深刻で力強い主題。

BWV 861 前奏曲 - 4 声のフーガ [ト短調](#) (Präludium und Fuge g-Moll BWV 861)



第 17 番 変イ長調, BWV 862

- 前奏曲: 柔らかで優雅な性格。装飾音が効果的に使用されている。
- フーガ: 3 声のフーガで、上品で洗練された主題。

BWV 862 前奏曲 - 4 声のフーガ [変イ長調](#) (Präludium und Fuge As-Dur BWV 862)

第 18 番 変イ短調, BWV 863

- 前奏曲: 哀愁を帯びた性格。装飾的な音型が特徴的。
- フーガ: 4 声のフーガで、内省的で憂鬱な主題。

BWV 863 前奏曲 - 4 声のフーガ [嬰ト短調](#) (Präludium und Fuge gis-Moll BWV 863)

第 19 番 イ長調, BWV 864

- 前奏曲: 快活でエネルギッシュな性格。リズムが強調されている。
- フーガ: 3 声のフーガで、陽気で軽快な主題。

BWV 864 前奏曲 - 3 声のフーガ [イ長調](#) (Präludium und Fuge A-Dur BWV 864)

第 20 番 イ短調, BWV 865

- 前奏曲: 哀愁を帯びた、物憂げな性格。ゆったりとしたテンポ。
- フーガ: 4 声のフーガで、深い感情とドラマを持つ主題。

BWV 865 前奏曲 - 4 声のフーガ [イ短調](#) (Präludium und Fuge a-Moll BWV

865)

第 21 番 変口長調, BWV 866

- 前奏曲: 明るく、朗らかな性格。シンプルなメロディーが特徴。
- フーガ: 3 声のフーガで、リズムカルで生き生きとした主題。

BWV 866 前奏曲 - 3 声のフーガ [変口長調](#) (Präludium und Fuge B-Dur BWV

866)

第 22 番 変口短調, BWV 867

- 前奏曲: 内省的で物悲しい雰囲気。和声の進行が印象的。
- フーガ: 4 声のフーガで、重々しい主題。
- BWV 867 前奏曲 - 5 声のフーガ [変口短調](#) (Präludium und Fuge b-Moll BWV 867)



第 23 番 口長調, BWV 868

- 前奏曲: 穏やかで優雅な性格。流れるような旋律が特徴的。
- フーガ: 3 声のフーガで、滑らかな主題が展開される。

BWV 868 前奏曲 - 4 声のフーガ [ロ長調](#) (Präludium und Fuge H-Dur BWV 868)

第 24 番 口短調, BWV 869

- 前奏曲: 荘厳で感情的な性格。強い表現力が求められる。
- フーガ: 4 声のフーガで、非常に深い感情を表現する主題。

BWV 869 前奏曲 - 4 声のフーガ [ロ短調](#) (Präludium und Fuge h-Moll BWV 869)

[Präludium](#)



第 2 巻 (Zweiter Teil, BWV 870～893)

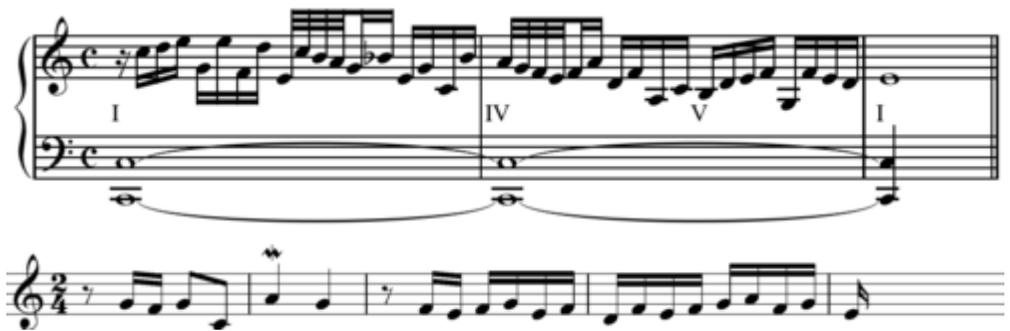
長短 24 調による前奏曲とフーガからなる曲集の第 2 巻。

第 1 巻同様に単独に作曲された曲集ではない。初稿を伝えるものを初め、多数の原典資料が現存する。ロンドン大英博物館に現存する自筆浄書譜は 1738-42 年頃に書かれ、1742 年に完成した。しかし弟子のアルトニコル (Johann Christoph Artnicol, 1719-1759) による 1744 年の筆写譜は、バッハによる散逸した修正稿に基づくものと考えられている。新バッハ全集 (Neue Bach-Ausgabe, NBA: V-6/2. Durr 校訂, 1995 年) は曲ごとに自筆譜と筆写譜のどちらを採用するかを決め、従となる譜も併録する方法を取っている。

練習曲としての性格が強かった第 1 巻に比べ、より音楽性に富んだ作品が多くなっており、前奏曲にはソナタに類似した形式のものも見られる。フーガにおいても対位法の冴えを見せ、二重対位法を駆使した反行フーガ (変ロ短調 BWV891) などは「フーガの技法」に勝るとも劣らない高密度な作品である。

1. BWV 870 前奏曲 - 3 声のフーガ ハ長調 (Präludium und Fuge C-Dur
BWV 870)

- 前奏曲: 明るく、快活で、平和な雰囲気。右手のシンプルなメロディーと左手のアルペジオ伴奏が特徴。
- フーガ: 3 声。軽快で、シンプルな主題が親しみやすく、対位法がクリアに展開される。



2. BWV 871 前奏曲 - 4 声のフーガ ハ短調 (Präludium und Fuge c-Moll
BWV 871)

- 前奏曲: 半音階的な動きが特徴で、緊張感を持つ。和声進行がドラマチックで深い感情を表現。
- フーガ: 3 声。テーマは半音階的で陰鬱な雰囲気を持ち、複雑な対位法で展開される。

The image displays the first system of the musical score for BWV 872. It consists of four systems of music. The first system is the prelude, marked 'Piano', in C major and 3/4 time. It features a light, rhythmic melody in the right hand and a simple bass line in the left hand. The second system is the beginning of the fugue, marked with a '3' above the first measure, showing three voices entering. The third system continues the fugue with more complex textures. The fourth system shows further development of the fugue with various rhythmic patterns and dynamics.

3. BWV 872 前奏曲 - 3 声のフーガ嬰ハ長調(Präludium und Fuge Cis-Dur BWV 872)

フランツ・クロール版では変ニ長調になっている。

- 前奏曲: 明るくリズムカル。右手の軽やかな動きと左手のバス音がバランスを取り、喜びに満ちた雰囲気。
- フーガ: 4 声。速いテンポでエネルギッシュに進行し、主題が次々と模倣される。

4. BWV 873 前奏曲 - 3 声のフーガ嬰ハ短調(Präludium und Fuge cis-Moll BWV 873)

- 前奏曲: 重厚で感情的。緊張感のある和音進行と力強いリズムが印象的。

- フーガ: 3 声。劇的なテーマが対位的に展開され、深い感情が表現されている。

Piano

The image displays a musical score for a three-voice fugue in piano. The score is presented in three systems, each consisting of a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature is three sharps (F#, C#, G#), and the time signature is 3/8. The first system is marked with a piano dynamic. The second system begins with a measure number '5' above the treble clef. The third system begins with a measure number '8' above the treble clef. The music features complex counterpoint with various rhythmic patterns, including eighth and sixteenth notes, and rests. The overall texture is dense and expressive, characteristic of a dramatic fugue.

Piano

4

7

5. BWV 874 前奏曲 - 4 声のフーガ ニ長調 (Präludium und Fuge D-Dur
BWV 874)

- 前奏曲: 明るく快活。跳ねるようなリズムが特徴で、楽しい印象を与える。
- フーガ: 4 声。陽気で楽しいテーマが複雑な対位法で展開される。

6. BWV 875 前奏曲 - 3 声のフーガ ニ短調 (Präludium und Fuge d-Moll
BWV 875)

- 前奏曲: 感傷的で静かな雰囲気。メロディーラインが美しく、内省的な性格。
- フーガ: 3 声。哀愁のある主題が展開され、深い感情が表現されている。

Piano

5

9

Piano

4

6

Detailed description of the musical score: The score consists of six systems of piano music. The first system (measures 1-4) features a continuous sixteenth-note pattern in the right hand and a simple bass line in the left hand. The second system (measures 5-8) has a more complex right-hand texture with some rests and a steady bass line. The third system (measures 9-12) continues with intricate sixteenth-note patterns in both hands. The fourth system (measures 13-16) is marked 'Piano' and features prominent triplets in the right hand. The fifth system (measures 17-20) shows a change in texture with more sustained notes and a triplet in the left hand. The sixth system (measures 21-24) concludes with a final sixteenth-note flourish in the right hand and a simple bass line.

7. BWV 876 前奏曲 - 4 声のフーガ 変ホ長調 (Präludium und Fuge Es-Dur BWV 876)

- **前奏曲:** 優雅で穏やか。柔らかいアルペジオが流れるように奏でられる。
- **フーガ:** 3声。穏やかで親しみやすい主題が繰り返される。

8. BWV 877 前奏曲 - 4声のフーガ 嬰二短調(Präludium und Fuge dis-Moll BWV 877)

フランツ・クローラ版では変ホ短調になっている。

- **前奏曲:** 悲しげで神秘的な音楽。半音階的な動きが特徴。
- **フーガ:** 4声。劇的で感情的なテーマが重厚に展開される。

9. BWV 878 前奏曲 - 4声のフーガ ホ長調(Präludium und Fuge E-Dur BWV 878)

5音からなるフーガ主題は、ヨハン・カスパー・フェルディナント・フィッシャー(Johann Caspar Ferdinand Fischer, 1656-1746)の「アリアドネ・ムジカ(Ariadne musica, 1702)」のホ長調フーガからの引用。

- **前奏曲:** 快活で軽快。明るいメロディーが特徴で、跳ねるようなリズム。
- **フーガ:** 3声。軽やかで明るいテーマが展開される。

10. BWV 879 前奏曲 - 3声のフーガ ホ短調(Präludium und Fuge e-Moll BWV 879)

- **前奏曲:** 内省的で感傷的。装飾音が効果的に使われ、静かな美しさが際立つ。
- **フーガ:** 3声。哀愁を帯びた主題が展開される。

11. BWV 880 前奏曲 - 3声のフーガ へ長調(Präludium und Fuge F-Dur BWV 880)

- **前奏曲:** 明るく、親しみやすい性格。リズムが軽快で和音の進行もシンプル。
- **フーガ:** 3声。快活で、陽気なテーマが展開される。

12. BWV 881 前奏曲 - 3 声のフーガ へ短調 (Präludium und Fuge f-Moll BWV 881)

- 前奏曲: 深い悲しみを表現。和声進行が劇的で、感情的な深みがある。
- フーガ: 4 声。重厚で感情的なテーマが対位的に展開される。

The image displays the musical score for BWV 881, consisting of a Prelude and the beginning of a Fugue. The score is written for piano and is in the key of F minor (three flats) and 2/4 time. The Prelude is a short piece of six measures, featuring a somber and dramatic harmonic progression. The Fugue begins with a four-measure introduction, followed by the entry of the first voice in the fifth measure. The notation includes treble and bass staves with various musical symbols such as notes, rests, and accidentals.

13. BWV 882 前奏曲 - 3 声のフーガ 嬰へ長調 (Präludium und Fuge Fis-Dur BWV 882)

- 前奏曲: 軽快でエレガント。優雅なリズムとメロディーが特徴的。
- フーガ: 3 声。明るく、軽やかなテーマが展開される。

14. BWV 883 前奏曲 - 3 声のフーガ 嬰へ短調 (Präludium und Fuge fis-Moll BWV 883)

- **前奏曲:** 感情的で内省的な雰囲気。半音階的な動きと緊張感のある和声
が特徴。
- **フーガ:** 3 声。悲壮感のあるテーマが対位法で展開される。

15. BWV 884 前奏曲 - 3 声のフーガト長調(Präludium und Fuge G-Dur
BWV 884)

- **前奏曲:** 明るく、楽しい性格。リズムカルで、跳ねるような旋律。
- **フーガ:** 3 声。陽気で快活なテーマが展開される。

16. BWV 885 前奏曲 - 4 声のフーガト短調(Präludium und Fuge g-Moll
BWV 885)

- **前奏曲:** 劇的で深刻。力強いリズムと和音が印象的。
- **フーガ:** 4 声。重厚でドラマティックなテーマが展開される。

17. BWV 886 前奏曲 - 4 声のフーガ 変イ長調(Präludium und Fuge As-Dur
BWV 886)

- **前奏曲:** 優雅で繊細。柔らかなアルペジオが流れ、リズムも穏やか。
- **フーガ:** 3 声。上品で明るいテーマが展開される。

18. BWV 887 前奏曲 - 3 声のフーガ 嬰ト短調(Präludium und Fuge gis-Moll
BWV 887)

- **前奏曲:** 悲しみを帯びた内省的な雰囲気。半音階的な進行と深い感情が表
現されている。
- **フーガ:** 4 声。感情的で内省的なテーマが展開される。

Piano

4

Piano

7

12

19. BWV 888 前奏曲 - 3 声のフーガイ長調 (Präludium und Fuge A-Dur BWV 888)

- 前奏曲: 明るく快活な性格。シンプルな和音とリズムが特徴。
- フーガ: 3 声。軽快で明るいテーマが展開される。

20. BWV 889 前奏曲 - 3 声のフーガイ短調 (Präludium und Fuge a-Moll
BWV 889)

- 前奏曲: 内省的で物悲しい雰囲気。装飾音が美しく、感情的な深みがある。
- フーガ: 3 声。哀愁を帯びたテーマが展開される。

21. BWV 890 前奏曲 - 3 声のフーガ 変ロ長調 (Präludium und Fuge B-Dur
BWV 890)

- 前奏曲: 快活で明るい性格。跳ねるようなリズムと親しみやすい旋律。
- フーガ: 4 声。軽やかに楽しいテーマが展開される。

22. BWV 891 前奏曲 - 4 声のフーガ 変ロ短調 (Präludium und Fuge b-Moll
BWV 891)

- 前奏曲: 感情的で深い音楽。半音階的な進行と対比的なダイナミクスが特徴。
- フーガ: 4 声。感情的で深いテーマが展開される。

The image displays the musical score for BWV 891, consisting of a Prelude and the beginning of a Fugue. The score is written for piano and is in the key of B-flat major (two flats). The Prelude (measures 1-5) features a melancholic atmosphere with a descending chromatic line in the right hand and a steady eighth-note accompaniment in the left hand. The Fugue (measures 6-10) begins with a four-part setting of the main theme, characterized by a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes. The notation includes treble and bass clefs, a piano dynamic marking, and various musical symbols such as accidentals and slurs.



23. BWV 892 前奏曲 - 4 声のフーガ ロ長調 (Präludium und Fuge H-Dur BWV 892)

- 前奏曲: 穏やかで美しい性格。優雅なアルペジオとメロディーが流れるように奏でられる。
- フーガ: 4 声。洗練された優雅なテーマが展開される。

24. BWV 893 前奏曲 - 3 声のフーガ ロ短調 (Präludium und Fuge h-Moll BWV 893)

- 前奏曲: 感動的で深い音楽。強い感情を表現するための和声進行と旋律が特徴。
- フーガ: 4 声。非常に感情的で複雑なテーマが展開され、作品全体の締めくくりとして壮大な印象を与える。

全体の特徴

《平均律クラヴィーア曲集》第 2 巻は、第 1 巻と同様に、バロック時代の音楽における調性の使用を探求した重要な作品です。しかし、第 2 巻では、より洗練された和声進行と技術的な要求が高く、演奏者には高度な技術と表現力が求められます。各前奏曲

とフーガは、それぞれの調性の特徴を活かしながら、独自の個性と感情を持って構成されています。

バッハの「平均律クラヴィーア曲集 第2巻」は、全24の調性を用いた前奏曲とフーガのセットで構成されています。この曲集は、バッハが1742年頃に完成させたもので、鍵盤楽器の教育用としても重要な作品です¹²。

第2巻は、以下のような特徴があります：

1. **24の前奏曲とフーガ**: 全ての長調と短調を網羅しています。
2. **教育的価値**: バッハの弟子たちが学習のために使用していました。
3. **多様なスタイル**: バロックから前古典派への移行を感じさせる多様な音楽スタイルが含まれています。
4. **調律の進化**: 短三和音で終止する曲が増え、当時の調律技術の進化を反映しています¹。

《フランス組曲》

ヨハン・セバスティアン・バッハは、6つの鍵盤楽器のための組曲であり、バッハの初期の鍵盤作品の一つとして知られています。この作品は、典型的なバロック時代の組曲形式に基づいており、それぞれが異なる舞曲から構成されています。《フランス組曲》は、親しみやすさと洗練された音楽性を兼ね備え、多くのピアニストやクラヴィーア奏者によって愛されています。

背景と概要

《フランス組曲》の作曲時期は1722年頃とされており、バッハがケーテン宮廷楽団の楽長を務めていた時期に作られたと考えられています。この時期、バッハは鍵盤楽器用の作品を数多く作曲しており、《イギリス組曲》や《平均律クラヴィーア曲集》なども同時期の作品です。

「フランス組曲」という名称は、バッハ自身が付けたものではなく、後の世代によって命名されました。特にフランスの様式に基づいているわけではありませんが、曲の軽快さや優雅さが、当時のフランス音楽の特徴を持っていると見なされたためです。

各組曲の構成と内容

各組曲は、前奏曲(プレリュード)を持たず、以下の基本的な舞曲から構成されています。

1. アルマンド (Allemande) - ドイツ起源の穏やかな舞曲で、4分の4拍子。落ち着いたテンポで演奏される。
2. クーラント (Courante) - フランス風の速い3拍子の舞曲。軽やかなリズムが特徴。
3. サラバンド (Sarabande) - スペイン起源のゆっくりとした3拍子の舞曲。荘重で、メランコリックな性格を持つ。
4. メヌエツト (Minuet)、プレー (Bourrée)、ルール (Loure)、ガヴォツト (Gavotte)、ポロネーズ (Polonaise) などの多様な追加舞曲が続く。この部分では、各組曲ごとに異なる舞曲が選ばれている。

5. ジーグ (Gigue) - 6 分の 8 拍子や 12 分の 8 拍子の早いテンポの舞曲で、組曲の締めくくりを飾る。

以下、各組曲の簡単な概要です。

第 1 番 ニ短調 BWV 812

- **特徴:** 全体的に柔らかく穏やかな印象。アルマンドは優美で落ち着いており、クーラントは軽やかな流れ。サラバンドは荘重で、終曲のジーグは生き生きとしている。

第 2 番 ハ短調 BWV 813

- **特徴:** より内省的で感情的。アルマンドはシンプルでありながら深い表現力を持ち、サラバンドでは重厚で悲しみを帯びたメロディーが際立つ。ジーグは速く、エネルギッシュ。

第 3 番 ロ短調 BWV 814

- **特徴:** バッハの典型的な技巧と対位法が見られる。クーラントの流れるような動きが印象的で、サラバンドは優雅な美しさを持つ。ジーグは軽快でリズムカル。

第 4 番 変ホ長調 BWV 815

- **特徴:** 明るく、楽しい性格。アルマンドは穏やかで、クーラントは快活。サラバンドは柔らかく、リラックスした雰囲気。終曲のジーグは陽気で楽しげ。

第 5 番 ト長調 BWV 816

- **特徴:** 最も人気のある組曲の一つ。アルマンドは穏やかで、クーラントは軽やか。サラバンドは荘重で優美、そして終曲のジーグは楽しいリズムを持つ。

第 6 番 ホ長調 BWV 817

- **特徴:** 洗練された組曲。アルマンドは繊細で、クォラントは流れるような動き。サラバンドは壮大で美しく、終曲のジークは高度な技巧を要する。

《フランス組曲》の意義

《フランス組曲》は、教育的な側面と演奏会用の側面を兼ね備えた作品です。それぞれの舞曲が異なる技術と表現を求め、演奏者の音楽性を高めるための重要なレパートリーとして知られています。また、その親しみやすいメロディーとリズムの魅力により、多くの演奏者や聴衆から愛されています。バッハの他の鍵盤作品と同様に、《フランス組曲》はバロック音楽の美しさと深みを体現しており、古典音楽の重要な一部を成しています。

《イギリス組曲》

ヨハン・セバスティアン・バッハのは、6つの鍵盤楽器のための組曲であり、バッハの初期の鍵盤作品の中でも特に重要な位置を占めるものです。この作品は、バッハがケーテンで宮廷楽団の楽長を務めていた時期に作曲されたと考えられており、その華やかな構成と高度な技巧で知られています。イギリス組曲は、バッハの他の組曲作品と並んで、鍵盤楽器のレパートリーにおいて欠かせない作品となっています。

背景と概要

《イギリス組曲》がいつ、なぜ「イギリス」と名付けられたのかははっきりしていませんが、19世紀の音楽学者による命名とされています。バッハがイギリスの音楽の様式を取り入れた証拠はないため、この名称はおそらく誤解によるものと考えられています。それでも、イギリス組曲という名前は定着しており、現在でも広く使われています。

この作品は、組曲形式の典型的なバロックスタイルを踏襲しつつ、バッハ独自の豊かな和声と対位法を駆使しています。各組曲は、前奏曲(プレリュード)で始まり、その後様々な舞曲が続く構成となっています。

各組曲の構成と内容

《イギリス組曲》は、それぞれ異なる調性で書かれており、各組曲は以下の基本的な舞曲を含んでいます。

1. プレリュード (Prelude) - 組曲の冒頭を飾る自由形式の導入部分。しばしば華やかで即興的な要素が特徴。
2. アルマンド (Allemande) - 穏やかな4分の4拍子の舞曲。しっかりとしたリズムと豊かな装飾が特徴。
3. クーラント (Courante) - クーラントには、イタリア風の速いテンポのものと、フランス風の少しゆっくりしたものがあり、どちらも軽やかに流れるようなリズムを持つ。
4. サラバンド (Sarabande) - ゆっくりとした3拍子の舞曲で、深い感情表現が特徴。通常は組曲の中で最も荘重な舞曲。

5. 追加の舞曲（ガヴォット、ブレー、パスピエなど） - 各組曲に応じて異なる舞曲が挿入される。これらの舞曲は、より軽快でリズムカルな要素を提供する。
6. ジーグ（Gigue） - 組曲の締めくくりとなる速いテンポの舞曲。複雑なリズムと対位法が特徴で、フィナーレとしてふさわしい活気を持つ。

第 1 番 イ長調 BWV 806

- **特徴:** 明るく華やかなプレリュードで始まる。アルマンドは穏やかで、クォラントは活発。サラバンドは荘重で、ガヴォットとガヴォットIIは軽やかな中間部分として配置されている。ジーグは速く、技巧的。

第 2 番 イ短調 BWV 807

- **特徴:** 内省的でありながら力強い。プレリュードはエネルギッシュで、アルマンドは深い感情を持つ。クォラントは流れるようなリズムで、サラバンドは荘厳。ブレーは軽快で、ジーグは複雑なリズムが特徴。

第 3 番 ト短調 BWV 808

- **特徴:** 暗い調性ながら、しばしば劇的でダイナミック。プレリュードは重厚で、アルマンドは流れるようなメロディ。クォラントは活発で、サラバンドは悲しげな美しさを持つ。ガヴォットとムスィエはリズムカルで、ジーグは対位法的。

第 4 番 ヘ長調 BWV 809

- **特徴:** 明るく、快活な調性。プレリュードは長大で壮大、アルマンドは穏やかでありながら装飾的。クォラントは軽やかで、サラバンドは穏やか。メヌエットとトリオはリズムカルで楽しい。ジーグは生き生きとしている。

第 5 番 ホ短調 BWV 810

- **特徴:** 魅力的でエモーショナルな作品。プレリュードは複雑で表現力豊か。アルマンドは感情的で、クォラントは活気に満ちている。サラバンドは荘厳で、パスピエは軽快で、終曲のジーグは技術的な挑戦を要する。

第6番 二短調 BWV 811

- **特徴:** カ強く、劇的な性格。プレリュードは華やかで、アルマンドは深い感情表現を持つ。クォーラントは素早く、サラバンドは荘重でメランコリック。ガヴォットとダブルは軽快で、ジークは複雑なリズムが特徴。

《イギリス組曲》の意義

《イギリス組曲》は、バッハの組曲形式の集大成とも言える作品で、彼の鍵盤音楽における卓越した技術と表現力を示しています。この組曲は、バロック時代の様々な舞曲形式を取り入れつつ、バッハ独自の対位法と和声感覚を融合させています。特に、プレリュードの自由な構成と、各舞曲の精緻な書法が、演奏者にとって高度な技術と深い音楽的理解を必要とします。

《イギリス組曲》は、バッハの他の鍵盤作品と共に、バロック音楽の豊かな表現を理解し、演奏するための重要なレパートリーとされており、今日でも多くのピアニストやクラヴィエーア奏者によって愛され、演奏され続けています。

[編集]